

統合医学演習

ナンバリング

M4-S1-D31

責任者・コーディネーター	腫瘍生物学研究部門 前沢 千早 教授				
担当講座・学科（分野）	腫瘍生物学研究部門、産婦人科学講座、小児科学講座、衛生学公衆衛生学講座				
担当教員	前沢 千早 教授、尾上 洋樹 助教、外館 玄一朗 特任准教授、田鎖 愛理 講師、安平 進士 講師、柴崎 晶彦 助教				
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	14コマ	28.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床実習前の基盤知識の整理ならびに問題解決能力育成のために、2・3学年に行われてきた演習講義の総括をwebclassを使って行う。さらに3・4学年で実施されている科目横断的講義に関しても、診断から治療に係る過程をなぞる問題演習によって疑似体験できる。学修者は演習問題に付された解説を読み何度でも演習する事が可能で、不明な点はwebclassの機能を使っていつでも質問することができる。

・教育成果（アウトカム）

①病態生理の理解に重きをおいた基礎/臨床医学の垂直統合型の知識と、②症例をベースにした科目横断的知識ならびに問題解決能力をITCを使った修得する。学修者はこの演習を行う事で臨床実習前の基盤知識・問題解決能力を身につける事ができる。

(ディプロマ・ポリシー: 4)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	基礎生命科学の基盤知識を応用して症例の病態生理を説明出来る。
2	症例ベースの演習を通して、患者の診断・治療に係る適切な選択・判断を説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/16(水)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	学内模試の解説講義 統合医学演習(1)	1,2
講義	4/24(木)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(2)	1,2
講義	5/1(木)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(1、2)の解説 講義	1,2
講義	5/8(木)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(3)	1,2
講義	5/15(木)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(4)	1,2
講義	5/28(水)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(5)	1,2
講義	6/5(木)	1	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習(3, 4, 5)の解説 講義	1,2

講義	6/5(木)	2	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (6)	1,2
講義	6/12(木)	1	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (7)	1,2
講義	6/12(木)	2	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (8)	1,2
講義	6/18(水)	5	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	統合医学演習 (6, 7, 8)の解説 講義	1,2
講義	6/19(木)	3	産婦人科学講座	尾上 洋樹 助教	産婦人科学の領域で学習した 内容についての総まとめ 演習	1,2
講義	6/19(木)	4	小児科学講座	外館 玄一郎 特任准教授	小児科学の領域で学習した 内容についての総まとめ演習	1,2
講義	6/24(火)	5	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	社会医学に関する総まとめ 演習	1,2

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
登録済みの教科書・参考書はありません				

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 【形成的評価】 演習の正答率はwebclassを通じて学生自らチェックが可能である。コーディネーターはリアルタイムに全体の正答率を把握し、その結果を学生にフィードバックする。学生には自らの理解不足の領域に係る学修計画の立案を行う能動学習の習慣を身につけてもらう。コーディネーターは適宜webclassのメール機能を使い学生に学修状況に係るフィードバックを行う。
--

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。 本科目では、事前事後学修以外に180分の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

webclassを使った演習問題、および過去の学生の演習成績に基づく理解度情報。
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			